

協議概要

(会議名)	令和5年度 第2回船橋市特別支援教育連携協議会
(日時・場所)	令和6年2月15日(木) 14:30~16:30 602会議室
(出席者)	植草学園短期大学教授 佐藤 慎二、船橋市自閉症協会副会長 三川 瑞子、 幼稚園連合会長 田中 善之、船橋公共職業安定所 神子 真二、 県教育庁葛南教育事務所指導主事 平石 弘、 県立船橋特別支援学校長 土田 崇一郎、 福祉サービス部長 岩澤 早苗、こども家庭部長 森 昌春、 市立船橋高等学校長 津田 亘彦、 市立船橋特別支援学校長 兼坂 尚貴、小学校長会長 小林 英俊、 中学校長会長 磯野 護、特別支援学級設置校校長会長 藤木 美智代、 特別支援教育研究連盟理事長 山岸 恒孝、 教育次長 村田 真二、学校教育部長 日高 祐一郎、 市総合教育センター所長 太田 由紀
(事務局)	神田 順子、鰐部 裕実、落合 信江、横内 正隆、鈴木 学、生岩 良太、 星野 沙織

<議題>

乳幼児期から学校卒業後までの一貫した支援ネットワークづくり

<概要>

- ・作業部会で出た意見を踏まえ作成した、引継ぎのための連絡票について事務局から説明。2つの様式を用意し、就学前施設が記入しやすい方を選択できるようにした。また、引継ぎのための連絡票が個別の教育支援計画のプロフィールとして使えるように検討している。
- ・就学前施設の立場からすると、様式を2つ用意したことで、施設ごとに書きやすい方を選択できるのでありがたい。
- ・個人情報保護の観点から、保護者の承諾がないと難しいが、幼稚園の立場からすると、入園する前にどこかの施設、例えば病院などから引継ぎのための連絡票がもらえると助かる。
- ・引継ぎのための連絡票だけでなく、ライフサポートファイルの活用も一貫した支援には有効である。将来的に障害福祉サービスを受ける際にもライフサポートファイルなどの根拠資料が必要になってくる。
- ・引継ぎのための連絡票や個別の教育支援計画、指導計画のデータ化も今後検討していく必要がある。
- ・引継ぎのための連絡票を受け取る側としては、チェック項目がある方が、客観的に子どもの状況を把握しやすい。また、チェック項目ごとにその状態の濃淡が分かるようにすると良い。
- ・中学校にとっても小学校からの引継ぎのための連絡票は大変役立っている。保護者や小学校の思いを

しっかりとくみ取っていきたい。また、中学校校長会でも引継ぎのための連絡票について話題にしていく。

- ・新しく提案された引継ぎのための連絡票では、知的発達や情緒面の観点だけでなく、身体面や医療的ケアに関する観点も取り入れているので良い。
- ・他市に比べて、船橋市は引継ぎについて先進的な取り組みを行っている。船橋市の取り組みを他市が見習っているところがある。
- ・書面のやりとりだけでなく、対面での情報共有も必要である。
- ・引継ぎのための連絡票をなるべく早く進学先に送ることで、進学先は学級編成する際の貴重な情報になる。なるべく早く届けるようにアナウンスしてもらいたい。
- ・チェック項目が「できる」「できない」の2択になってしまうと、能力的にはできるが、やるのに大変な労力がある子どもが見落とされてしまう恐れがある。最近、過剰適応で頑張りすぎてしまっている子どもが不登校や引きこもりになってしまうケースがある。「できるが疲れやすい」とか「できるが続かない」などの項目もあると良い。
- ・引継ぎのための連絡票は保護者や担任が記入することがほとんどであるが、成人になった際は、自分でこれまでやってもらったことやこれからやってほしいことを伝える必要がある。高校生くらいからは自分で合理的配慮等を申請できるような指導も行う必要がある。
- ・引継ぎのための連絡票の項目の中に、「3月中の面談を希望する」「進学先からの連絡を希望する」「本資料を放課後等デイサービスと共有することを了承する」などのチェックボックスがあると、より連携がスムーズになる。
- ・引継ぎのための連絡票の様式が各段階でも同じなのは良いが、段階に応じてチェック項目を多少変化させることも必要である。例えば、小学校から中学校へは「読み書きの困難さ」などがあると良い。

<検討結果>

これらの意見を踏まえ、来年度の連携協議会で新しい引継ぎのための連絡票を提案する。そして、次回以降、引継ぎのための連絡票をどのように個別の教育支援計画にリンクさせていくか検討していく。